校内研修で個別面談力を高める

個別指導をするうえで欠かせない「面談」は、生徒自身が自分の迷いや考えを整理するうえでも、重要な機会になります。そのような個別面談について先生同士で学び合うと、さらにスキルアップにつながるのではないでしょうか。そこで個別面談の校内研修を実際に先生方に体験していただきました。その様子と、研修の進め方をレポートします。

取材・文／清水由佳　撮影／清水一也　イラスト／おおさわゆう

研修指導
明治大学文学部教授
諸富祥彦先生
Yoshihiko Morotomi

筑波大学人間学類、同大学院博士課程修了。教育学博士。千葉大学教育学部講師、助教授などを経て現職。臨床心理士、上級教育カウンセラー、学会認定カウンセラーなどの資格をもつ。日本カウンセリング学会理事。教師を支える会代表として、現場教師の作戦参謀としても活躍。著書に『教師が使えるカウンセリングテクニック80』など多数。
http://morotomi.net/

個人面談研修が必要になる理由とは

担任がクラス運営をしていく中で、個人面談を行う場面は少なくない。しかし、そのやり方に関しては、個々の先生に任されていることが多いのではないだろうか。

「教科指導や生活指導、進路指導など多くの研究会がありますが、担任が生徒とどう接していくかといった個別指導は個々の教員まかせという実態があると思います。そのため、教員によって得意・不得意があって、生徒や保護者からの信頼の差につながっていそうです」とは、東京都立文京高校校長の久保淳先生。「個人面談で扱う内容では、保護者からもち込まれる苦情や生徒の難しい悩みにどう対処するかが、担任として一番切実な問題だと思います。そういうケースについて学年会や職員会などで話し合ってはいますが、それでは何か後手に回っている気がします」。

実際、日頃の面談で気になっていることを先生方にうかがったところ、「面談内容に関しては事前の学年会で打ち合わせをしているが、他の教員がどのような姿勢や方法で面談を行っているのかを知り、学ぶ機会が少ない」（神奈川県立湘南台高校・黒崎洋介先生）や、「昨年度3年生の担任をしていましたが、どのような声かけをすれば生徒や保護者が安心するのかといったお手本がなく、不安を抱えたまま面談をしていました」（東京都立淵江高校・小池有紀先生）などの悩みや不安の声があがった。

「これまで個人面談は、研修より経験の積み重ねで力をつけていくものでした。しかも、それらの経験を教員同士で共有しながら、互いに影響を受け合い、力を伸ばしていくというような感じだったと思います。ところが、教員の世界も『個』の時代になってきて、自分から貪欲に機会を求めていかないといけなくなってきました。ですから、校内研修などを実施して教員同士の学びの場を作っていくことが、とても大切だと思います」（明治大学教授・諸富祥彦先生）

実際のケースをロールプレイング

研修といっても、講義や話し合いだけでなく、実際に「体験」して考えることが重要だと諸富先生は語る。そのための手法の一つが「ロールプレイング」。日頃行っている個人面談を、ケースをもとに演じて再現し、客観的に考えてみようというものだ。

「先生方にとっては、ロールプレイングはあまり馴染みがないかもしれません。しかし、特に校内で教員同士が面談を学び合うには、とても有効な手法です」（諸富先生）

そこで、実際に12人の高校の先生に集まってもらい、生徒との個人面談と保護者との個人面談においてありがちなケースを2つずつロールプレイ

ポイント1 アイスブレイク

日頃顔見知りの先生同士での研修でも、最初にアイスブレイクをすることは大事。今回の研修では、以下の3種類を実施した。

1 ジャンプしながらハイタッチ！

席を立ち、グループの人と互いにジャンプをしながらハイタッチ。全員が互いにやり終わったら、最後はグループ全員で手をつなぎ、一際高くジャンプしながらハイタッチ！

2 全員と指を合わせて自己紹介

研修参加メンバー全員が、それぞれにあいさつをして回る。互いに人差し指を合わせて、簡単な自己紹介と、この研修で何を得たいと思っているかをひとことずつ。自由に動き回り、できるだけ全員とあいさつを交わすように。

3 グループでダンス！

グループごとにダンスを考え披露する。できるだけ創意工夫をして、ユニークでおもしろいダンスを考えて踊る。練習タイム3分くらい＋グループごとの発表を。

誌上体験研修の概要

［参加者］ 文京高校（東京・都立）金田亜妃子先生、北嶋亜紗美先生、杉山奈穂先生、前川達郎先生／淵江高校（東京・都立）小池有紀先生／関東第一高校（東京・私立）風見加菜恵先生、畑中計政先生、川合智先生／藤沢清流高校（神奈川・県立）金田亨先生、長谷川智司先生、小島昭彦先生／湘南台高校（神奈川・県立）黒崎洋介先生

［スケジュール］

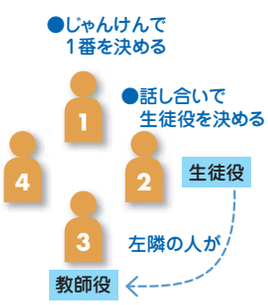
9：30 研修趣旨の説明 アイスブレイク
10：00 生徒との個人面談 ロールプレイ実施（2ケース）
＜各ケースの進行＞
- ケースの読み込みとデモンストレーション（全体）
- 生徒役と先生役の人のロールプレイ（グループごとに）
- ロールプレイの振り返り（グループごとに）
- 得たこと・学んだことと全体シェア（全体）

11：15 保護者との個人面談 ロールプレイ実施（2ケース）
＜各ケースの進行＞
- ケースの読み込みとデモンストレーション（全体）
- 保護者役と先生役の人のロールプレイ（グループごとに）
- ロールプレイの振り返り（グループごとに）
- 得たこと・学んだことと全体シェア（全体）

12：30 全体の振り返り（グループごとから全体シェアへ）と質疑応答
13：00 終了

ポイント2 グループ分けと進め方

4人一組で行う。最初にじゃんけんで1番の人を決める。その先生から時計まわりに2～4番の人を決定。これが、研修中に発言を促すための順番となる。その後ケースを読み合わせ、ケース事例の生徒や保護者に近い面談をしたことがある人が生徒役・保護者役を行う。教師役は、生徒役・保護者役の左隣の人。ほかの2人はやりとりを観察する人になる。



する研修を体験してもらった。

【研修再録】「演じる」ための場をつくる

ロールプレイというと、見本を示すために大人数の前で代表者が行う形式もある。しかしこの研修では、教員同士が実際に体験して考えることが大切なので、4人ずつのグループを作り実施。今回は、同じ高校、地域の先生同士で組んでもらった。机をはずし、できるだけ小さな輪の円陣を組むところから研修がスタート。

「校内研修の場合は、問題意識を共有するためにも、学年ごとに3～4人のグループに分けることをおすすめします」（諸富先生）

円陣になったところで、最初は、「アイスブレイク」。場をほぐすアイスブレイクは、日頃一緒に仕事をしている教員同士の校内研修でも必ず実施したい。今回、諸富先生は、上記の3種類を実施した。

「特に私がどこの研修でも実施しているのが、3の『ユニークなダンスを考え踊る』というもの。教員の研修では、皆さんわりと踊れますよ。ただ、校内研修では抵抗感の強い方もおられるかもしれません。その場合は、ハイタッチと指を合わせて話をするという最初の2つを実施できるといいでしょう」（諸富先生）

場がほぐれたところで、今度はグループ内での役割決めへ（ポイント2を参照）。ケースを読み、「こんな生徒いたな」「こんな保護者に悩まされたことがある」という経験者が、それぞれのケースの生徒役・保護者役になるよう、グループごとに話し合い決定した。

「今回は、こちらでケースを準備しましたが、校内研修を行う際は、実際に自分たちが悩まされたケースなどを使うのがいいと思います。リアルなケースであるほど、なりきりやすいですし、参考になります」（諸富先生）

生徒との面談

普段、当たり前のように行っている生徒との個人面談。ロールプレイを通じて、生徒の気持ちになったり、ほかの教員が行っている様子を見たりすると、自分自身の生徒とのかかわりを客観的に考えられるようになる。そんなロールプレイをどのように進めていけばいいのか。校内研修の担当者になった場合にも役立つ諸富先生の進行からヒントを得てみたい。

生徒のケース例

進路に関して、親との葛藤で悩む男子生徒

地方高校3年生の1学期。男子生徒。両親ともに公務員で、将来的に安定した仕事についてもらいたいと考え、公務員や銀行員になることを勧めている。そのために、地元国立大学の経済学部か法学部を受けるように言われている。しかし、成績的にかなり難しいと本人は悩んでいる。しかも本人は東京の私大に進学したいという思いもあるが、両親には大反対され悩んでいる。

ロールプレイ再録

1 まずはデモンストレーション　3分

研修担当教師（生徒役）▼ 先生、オレ困っているんだけど。親はさあ、公務員になれっていうんですよ。で、地元の国立に行けっていうんですよね。でもオレさあ、東京に行きたいんですよ。やっぱさあ、ここにいたんじゃ、なんかやる気出ないっていうかさ。正直言うと、親、息苦しいんですよね。オレ、東京に行かないと人生、開けてこない気がするんですよ～。

教師役▼ 東京に行って何かやりたいことがあるのか？

研修担当教師（生徒役）▼ 何かっていうより、オレ東京に行きたいんですよ。東京に行けば、何かビッグな夢がありそうでさ。ビッグになりたいんだよ、オレ。

2 生徒との面談ロールプレイ　8分

教師役▼ じゃあ、山下。そこに座って。

生徒役▼ はい。実はちょっと進路で困っていて。親は将来公務員になれって。だから地元の国立大に行くように言われているんです。

教師役▼ 山下はどう思っているの？

生徒役▼ 国立大は成績的にきついかなって不安があって…。

教師役▼ そもそも行きたいとは思っている？

生徒役▼ 安定した生活をっていうのは、わからなくもないけど、本当はオレ、東京の私大に行きたいなって思っているんです。

教師役▼ それはいつごろから思っているの？

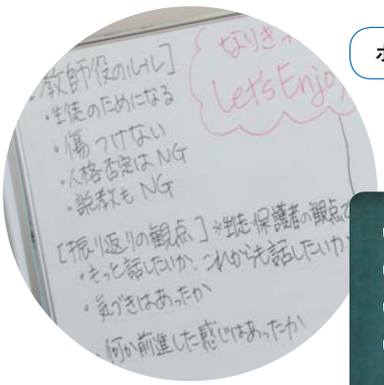
ファシリテーションのヒント

なりきって見本を演じましょう（諸富先生の声かけ）

研修担当者が、最初にロールプレイの見本として生徒役を実演。少しのやりとりでよいので、大げさなくらい「演じる」。それによって、研修を受ける教員たちが、ロールプレイを始めやすくなる。

生徒に名前をつけましょうか（諸富先生の声かけ）

生徒役・教師役ともに立ち上がり、ロールプレイで演じる生徒には名前をつけて、教師役が生徒を迎え入れるところからスタートする。名前を呼びかけて始めることで、演じるにもリアルさが実感できる。



ポイント4 振り返りの際のルール

面談を振り返る際も、以下の観点から振り返るように研修担当者は促したい。これも、グランドルールとともに、板書などしておくとよい。

- 良かった点
- できる点（～してみてはどうか）
- ダメ出しはNG
- （面談相手：生徒や保護者は）これからももっと話したいと感じたか
- 何か気づきがあったか、前進した感じがあったか

ポイント3 グランドルールを徹底する

ロールプレイ研修を始めるにあたって、教師役をするためのグランドルールを大きく板書などしておく。さらに、まずは「楽しむ」ことが大切なので、大きくLet's Enjoy!を書いておくとよい。

- 生徒のためになることを考える
- 傷つけない
- 人格否定はダメ
- 説教はしない
- 前向きになるような働きかけをする

Let's Enjoy!

3 ロールプレイの振り返り

8分

生徒役▼高校入って先輩たちが東京行くの見ていいなって。部活の先輩も東京で楽しいって言っているし。成績的に国公立は厳しいかなと思うんで、東京の私大かなって、でも、親は反対するんですよ。

教師役▼親には話したことがあるんだね。

生徒役▼進路の話になったとき、ちょっと言ったけど、そりゃないって言われて…。

教師役▼東京の私大で、学部とか、何かやってみたいことはある？

…（後略）…

生徒役▼具体的に聞いてくれたので、もっと先生と話をしようという気持ちになりました。成績の不安もあったので、勉強に関する話がもう少しできるともっと良かったかも。

教師役▼勉強の程度がどのくらいかがわからなかったので、学力を確認していくことが大事ですね。そのうえで、こんな先輩もいたよと言ってあげられるといいなと思いました。

観察者1▼全体的に本人の話を聞いてあげようという姿勢、否定的な言い方がなかったのがすごくいいなと思いました。

観察者2▼公務員以外でも安定した仕事を一緒に探すとか、人生にかかわるアドバイスができるともっといいかもしれませんね。

諸富先生の声かけ

生徒役から振り返りをしましょう

ロールプレイが終わったら、同じ時間をかけてロールプレイの振り返りを促す。生徒のための面談なので、まずは生徒役から話をしていく。その際のルールはポイント4を参照。前向きになれるよう徹底する。

得たこと・学んだことと全体シェア

15分

- 各人が、ロールプレイと振り返りの全体を通して気づいた点、学んだ点を、1行で書く。
- グループ内で、それぞれが書いた内容を、各人30秒ずつで話す。順番は、最初のグループ分けの際にじゃんけんでつけた1番の人から順に。
- 全体での振り返りのシェア。各グループの中から一人（教師役の先生）に、気づいた点、学んだ点を発表してもらう。

諸富先生の声かけ

1行だけでいいですよ

最後の「得たこと、学んだこと」は、簡潔に1行だけでいいと促す。それによって、より明確に気づきを言葉にしやすくなる。振り返りのシートを準備する場合も、1行（多くて2～3行）のスペースにするとよい。

体験者のコメント

「解決策を安易に教えてしまわず、生徒が自ら調べたり考えたりして解決策を導き出す、そのきっかけを与えることこそ必要。生徒にとって何が最も大切かを常に意識した面談を目指したい」（藤沢清流高校・小島昭彦先生）

生徒のケース

あれもこれも興味があって悩む女子生徒

高校1年の2学期。女子生徒。好奇心が旺盛。動物が大好きなので、獣医に興味あり。でもファッションにも興味があり手先が器用なので美容師もいいなと思っている。海外で活躍するような旅行関係や航空会社の客室乗務員などにもあこがれる。いろいろ「好き」がありすぎて、何かひとつに絞れそうもなく、文理選択もどうしたらいいのか悩んでいる。とりあえず理系に行っておいたほうが、あとあと有利なのだろうか？

ロールプレイ再録

1 まずはデモンストレーション　3分

研修担当教師（生徒役）▼先生、私、すっごくやりたいことがあって、困ってるの～。動物、チョー好きで、獣医なんか良さそうでしょ。あ、先生髪型変えた？　チョーかわいい！でね、美容師もいいなって思うの。旅行番組もすっごい好きで、CAとか旅行会社も楽しそうだし～。やりたいことがたくさんあって、文理選択もどうしたらいいか、困ってるの～。

教師役▼たくさんやりたいことがあって、エネルギッシュで、先生すごくいいと思うよ。

研修担当教師（生徒役）▼うれし～。先生、ほめてくれたあ。

諸富先生の声かけ

声のトーンや抑揚もたくさんつけて

ノリノリになって演じるためには、声のトーンや抑揚などもつけてオーバーにやってみることが大切。特に自分と異なる性別や年齢を演じる際は、思い切って大げさにやってみたい。

2 生徒との面談ロールプレイ　8分

教師役▼高橋さん、今日はどうしたの？

生徒役▼文理選択の時期じゃないですか。だけど、やりたいことがありすぎて、イマイチ決められないんですよ～。

教師役▼やりたいことがいっぱいあるんだね。いろいろ興味が向いて、アンテナを張っているということは、とってもいいことだと思う。

…（中略）…

教師役▼具体的に仕事を調べたりしている？

生徒役▼まだ特別そんなには。

教師役▼例えば獣医なら、自分ではどんなふうに調べられると思う？

生徒役▼スマホとか？

教師役▼スマホでどうやって調べる？

生徒役▼「獣医」って入れて、どんな仕事なのか。（中略）やっぱり調べてみよう。

教師役▼うんうん、調べてごらん。次の面談の日を決めたほうがいいかなと思うよ。それで、その時までに、何をやってくるか具体的に考えてみようか。…（後略）…

諸富先生の声かけ

生徒役はその生徒の解説をしないでくださいね

ロールプレイなので、「なりきって演じる」ことが大事。そこで、「生徒役の先生は、自分の役はこういう生徒で～など、解説をしないでください。あくまでも演じることです」と、最初に注意を促すことも。

ファシリテーションのヒント

ポイント5 ケース例の設定アドバイス

「進路がぼんやりとしている生徒の事例などは、本当によくあるケースだと思います。ただし、あまり悩み自体が漠然としているケースだと、ロールプレイをしたときに、少しやりづらいかもしれません。問題が顕在化している（例えば、『親は医者にというが自分は美大に行きたい』といったような明らかに悩んでいる）もののほうが、なりきりやすいですし、面談の振り返りで『前進した感じがするか』という観点で考えやすいでしょう。とはいえ、ケースは、先生自身が困ったケースを扱うのが一番です。なので、校内研修の場合、事前に先生たちから事例を集めてみてもいいでしょう」（諸富先生）

その他の生徒のケース例

進路がぼんやり漠然としている生徒

2年生の1学期・中間テスト後の女子生徒。進路調査で、文理選択はとりあえず数学が苦手なのでと文系を選んでいる。しかし、具体的な進路先は「わからない」と記入。ぼんやりと進学とは考えているものの、そもそも自分は何をしたいかがよくわからず、どうやって決めていけばいいのか。何から決めていけばいいのか、決め方を知りたいと相談に。

学びたいことの将来が見えず迷っている生徒

2年生の2学期。男子生徒。昔から遺跡発掘などに興味があり、考古学を勉強してみたいと思っている。しかし、考古学を専攻してもその先の仕事に結びつかない（現実的ではない）と思っている。就職のことを考えたら、つぶしがきく経済とかのほうがいいのだろうか？と悩んでいる。

3 ロールプレイの振り返り

8分

生徒役▼ 親身になって話を聞いてもらえたので、信頼できる感覚が強かった。最後に宿題という形にしてもらって、これから先生と相談すれば大丈夫という安心感もあった。

教師役▼ いつもこんな感じで面談をしていて、生徒にとにかく調べてもらう。時間の余裕がないとできないし、エネルギーもかかるけど、生徒が自分で考える力はつくと思う。

観察者1▼ 一番いいなと思ったのは、スケジューリングをしっかりして、生徒が確実に次のアクションを起こせることですね。

観察者2▼ 文理選択で悩んでいる生徒だけど、まずは興味のあることを具体的に調べるところからスタートして、安易に文理選択の答えを出そうとしなかったのが良かった。

あと1分。まだ話していない先生は話してください

諸富先生の声かけ

生徒役から振り返りをしていると話が長くなり、観察者の教員が話すタイミングを失っている場合がある。そこで、全体を見ながら、全員が発言できるように時間管理と声かけをしていくことも大切。

得たこと・学んだことと全体シェア

15分

●ロールプレイと振り返りで、気づいたこと、学んだことを1行で。

●グループ内で得たこと・学んだことを、各人30秒で語る。

1番の教師▼ やりたいことを具体的に見ていって、最終的に自主的に選択させることが大事だと思いました。（拍手～）

2番の教師▼ 文理選択がどういうものかということが、具体的に見えることも大事だと思いました。（拍手～）

3番の教師▼ 時期に合わせた話の進め方も大切。高校1年生なので悩むことも大事というスタンスでの話の展開があると思った。（拍手～）

4番の教師▼ 話を聞いていると優先順位が見えてくることもあるが、本人の悩みを邪魔しないということも大切だと思いました。（拍手～）

●全体に向けてグループごとに一人の教員が代表して気づきを発表。

（30秒で切って）はい、拍手～

諸富先生の声かけ

1行で書いた得たこと・学んだことを、各人が30秒ずつグループ内で伝える。ここは研修担当者が時間を管理し、話し中の先生がいるようでも「はい、拍手～」と全体に声かけすることで進行する。

保護者との面談

担任にとって、保護者との面談も緊張する場面。特に若い先生は、経験や知識も豊富な年長の保護者面談に戸惑いを感じていることも多い。そこで、自分たちが困った経験のある保護者対応についてロールプレイをしてみると、ほかの教員がどのように対応しているのかが見えて参考になる。今回の研修では、そんなよくありそうな事例を取り上げてみた。

保護者のケース例

学校の方針に不満をもって連絡をしてきた母親

高校2年・2学期、女子生徒の母（専業主婦）との保護者面談。親としては、推薦で大学に進学させたい（推薦のほうが安心感があるから）ので、学校の勉強が大事だと思っている。しかし、全校挙げて秋の文化祭に力を入れている校風のためか、中間テストが迫っているというのに連日文化祭準備で帰りが遅く、娘はちっとも勉強しているようには見えない。夏休みも返上で文化祭準備にかかりっきりであった。学校が生徒の勉強をどう考えているのか、不満を募らせている。先生から、もう少し勉強に集中させる指導はできないのかと思っている。

ロールプレイ再録

1 まずはデモンストレーション　3分

教師役▼こんにちは。どうぞおかけください。

研修担当教師（保護者役）▼ちょっとね、私、この学校に不満があるんですよ。うちの子推薦で行かせたいんですけど、文化祭のことばっかりやっていませんか？

教師役▼はい。今、ちょうどその時期ですね。

研修担当教師（保護者役）▼夏休みも、文化祭、文化祭って、ちっとも勉強していませんでしたよ。うちの学校はそういう学校なんだ～って。でも、これじゃあ、推薦なんてとれないじゃないですか。本当に心配になってくるんですよ。もう少し学校がちゃんと勉強に向かうようにしていただかないと！

2 保護者との面談ロールプレイ　8分

保護者役▼今日はちょっと不安でうかがいました。うちの子、夏休みが長かったんだけど、文化祭がと言って全然勉強していなかったんです。しかも今は中間テストも迫っているのに、段ボールだのペンキだのって、毎日遅くまで帰ってこないし。帰ってきても、何かゴソゴソやっていて、まったく勉強している様子がないんですよ。今はそういう時期だからって。先生はどう思います？　いいんですか？

教師役▼いや、それはさすがにちょっと問題だと思います。

保護者役▼ですよね。うちの子推薦で行かせたいんですよ。だったらこの2学期の中間テスト、すごく大事だと思うんです。

ファシリテーションのヒント

諸富先生の声かけ

自分の困った！をぶつけてみてください

保護者との面談では、先生自身が困ったケースがあるはず。「自分が困ったケースを思い切り演じることで、ストレス発散にもなります（笑）。困った経験をほかの先生と共有できることもメリットです」

諸富先生の声かけ

観察者の先生は、途中で手助けしないでくださいね

先生が困ったケースのロールプレイは、苦しい展開になる可能性もある。しかし、8分の時間をまずはやりきることが大切。観察者の先生はあくまで観察者なので、途中で手助けしないよう、最初に促したい。

ポイント6 三者面談の場合

「保護者面談の場合、個別対応もあれば、三者面談もあると思います。三者面談の研修も、同じやり方で、教師役・保護者役・生徒役と3人でロールプレイし、観察者もいるという形で実施するとよいでしょう。また、保護者面談でかなり困るのが、保護者か生徒、どちらかがずっと話をしてしまうケース。場をハイジャックされている形ですね。そんなケースは、教師役を複数の先生がかわるがわるやってみて、そこから考えるというのも役立ちます。ちなみに、保護者がハイジャックしそうになったら、『お母さん、ここは5分間、黙ってお子さんの話を一緒に聞いてみませんか。私も○○君の話を5分間聞きますから、一緒に聞いてみましょう』というように、はっきり言うこともあります」（諸富先生）

その他の保護者のケース例

部活より勉強を、と思っている保護者からの要望

高校1年2学期、初めての保護者面談。男子生徒の母（専業主婦）。本人はサッカー部に所属し張り切っている。最近は、家に帰ってきても疲れてすぐに寝てしまっていて、全然勉強している様子がないのが、母としては不安。将来のことを考えると大学に進学してもらいたいので、部活はそこそこに、勉強をしっかり頑張らせたい。先生からも、そんな指導をしてもらえないものかと考えている。

進路指導に不満をもって面談に来た保護者

高校2年・2学期、男子生徒の母（中学校教員）との保護者面談。進路指導で先生から「好きなことをやればいい」と言われたといい、好きなアニメ関連の仕事に就きたいと専門学校を調べ始めている息子。しかし、将来的にとても厳しい世界だと認識しているので、夢を追わせるだけでなく、しっかり現実に目を向けた指導をしてほしいと思っている。男子学生ということもあり、まずは大学進学をちゃんと考えさせてほしい。

3 ロールプレイの振り返り

8分

教師役▼そうですね。なので、クラス全体にもっと呼びかけをしていかないといけないかと思っています。（中略）ただ、文化祭で頑張ったことは、推薦にも役立つんですよ。書類や面接でアピールすることができますし。特に洋子さんは、今回の文化祭の演劇では主役を務めるために、とてもよく頑張ってリーダー的存在になっています。ぜひ、文化祭見に来てあげてください。

保護者役▼そうなんですか？そんなにうちの子頑張っているんですか。じゃあ、少しは勉強もするようなら見に来ようかしら。

保護者役▼学校やクラスでの状況がよくわかったので、少し安心しました。特に、推薦でもプラスになると言われたのが、良かったです。

教師役▼必死でした。推薦にプラスになるという話から関係が和らいだ気がするので、やはりそういう情報をちゃんとお伝えすることも大事だと思いました。

観察者1▼全体的に先生の一生懸命さが伝わってきたので、信頼できると思います。

観察者2▼お母さんの不安をちゃんと受け止めながら、でも、最後まで文化祭の大切さを捨てなかったのが、すてきだと思いました。豊かな体験で、受験勉強と同じくらい成長していくことをしっかり伝えられたのが良かったです。

諸富先生の声かけ

保護者役を中心に振り返りましょう

保護者との面談も生徒と同様、保護者役を中心に振り返るということをしっかり伝えたい。「もっと話したくなったか、信頼できたか、気づきはあったか、前進したか。良かった点はどんどんほめてください」

得たこと・学んだことと全体シェア

15分

●ロールプレイと振り返りで、気づいたこと、学んだことを1行で。
●グループ内で得たこと・学んだことを、各人30秒で語る。
●全体に向けてグループごとに教師役を務めた人が気づきを発表。

Aグループ教師役▼怒りをしっかり受け止める。そのうえで答えを明確にして、無理な対応策を勝手に言わないことも大事だと思いました。

Bグループ教師役▼保護者の方の意見はしっかりと聞いて、でも学校としてはこういう考えでやっているということも伝えていく必要があると思いました。

諸富先生の声かけ

教師に何ができたか、何ができるかを中心に

ロールプレイの振り返りは保護者を中心に振り返るが、全体の振り返りでは、そこで教師として何ができたか、できるかを中心に考えるように促す。教師が前進していくために大切な振り返りとなる。

保護者のケース例

子どもの将来をコントロールしたい父親

高校1年生・2学期、初めての保護者面談。男子生徒の父（司法書士）。事務所を構え、自分の跡を継がせたいので、息子には法学部に進んでほしいと考えている。本人はコンピュータに興味があって、ロボット製作の部活にも所属。本人の進路希望調査では、理系希望であった。しかし、父はロボット製作などプラモデル的なことは趣味でやればいいと思っていて、国立大学法学部への合格を目指した対策支援はどうなっているか聞こうとしている。

体験者のコメント

「具体的な生徒や保護者を想定して取り組めるのが良かった。自分が演じつつ、他人のロールプレイも聞くという意味では、1グループ4人はちょうどいいのだと思った」（文京高校・金田亜妃子先生）

ロールプレイ再録

1 まずはデモンストレーション　3分

研修担当教師（保護者役）▼ちょっと困っているんです。稔が、ロボットに関心をもって、それを仕事にしたいと言い出しているんですよね。

教師役▼そうですね。部活でも頑張っているみたいですよ。

研修担当教師（保護者役）▼でもロボットですよ、先生。仕事にすると言われてもね。私は、跡を継いで司法書士になってほしいんです。せっかく事務所も大きくしましたし。だから国立の法学部に行ってほしいんです。

教師役▼勉強も非常に頑張っていると思います。

研修担当教師（保護者役）▼そうなんですか！　司法書士になる素質はありますか？

2 保護者との面談ロールプレイ　8分

保護者役▼私、家で司法書士事務所を開いているので、稔を跡取りにと思っていたのですが、ロボットをやりたいと言い出していて。

教師役▼そうですね。学校でもロボット部に入って、本当に生き生きとロボット製作をしているのが印象的ですが。

保護者役▼ロボットで飯を食いたいと訳のわからないことを…。

教師役▼司法書士になってほしいと伝えていらっしゃる？

保護者役▼そうですね。小さいころからそんな話をしていたのですが。

教師役▼ちなみにお父様は司法書士の仕事のやりがいなどについて具体的にお話されたことは？

保護者役▼私の背中を見れば十分そういうことは伝わっていると思うのですが。…（中略）…

教師役▼文理選択は今すぐということでもありませんので、また本人とも話をしてみて、ご家庭でも話されて…。

保護者役▼でも、東大の法学部だと今から必死になって準備しないと間に合わないのでは？　ウチは代々、東大の法学部なんです。

諸富先生の声かけ

研修担当者は、ロールプレイの評価はしません

面談のロールプレイ研修は、ロールプレイそのものが上手にできることが大切なのではなく、参加教員同士で学び、気づくことが重要。なので、研修担当者は、やりとりの中身に関しての評価は行わない。

ファシリテーションのヒント

研修を終えて～参加教員の感想

●文京高校（東京・都立）金田亜妃子先生

生徒との面談でも、保護者との面談でも、とにかく日頃の生徒理解がいかに重要かを再確認しました。日常の中では、事務的な仕事が想像していたよりも膨大で手を焼いているのですが、生徒とかかわる時間を確保しようと思いました。

●文京高校（東京・都立）北嶋亜紗美先生

自分の引き出しをいかに増やすかが重要だと思いました。そのためにも、周囲には経験豊富な先生方がたくさんいらっしゃるので、自分ひとりで悩むのではなく、どんどん聞いてアドバイスをもらいたいと思います。

●文京高校（東京・都立）杉山奈穂先生

ほかの先生と研修を進めることで、いろいろな先生の対応方法などたくさんのことを吸収できました。研修後すぐに個人面談があり、また保護者からの電話も頻繁に受けることとなりました。その際ロールプレイで学んだことがすぐ活かせました。

●文京高校（東京・都立）前川達郎先生

あまり会話が得意ではない生徒との面談で、ついつい私が話してしまう光景がよくあります。しかし、そのような面談はダメで、生徒に話をしてもらうことが大事。そのためにも、日常的に生徒をよく理解し、ほめる話題を準備しようと思いました。

●淵江高校（東京・都立）小池有紀先生

保護者との面談では、日頃の生徒の様子を伝えることで大きな安心感を持ってもらえると気づきました。普段からそれぞれの生徒の良いところに目を向け、情報収集をしっかりやっていく必要があると思いました。

●関東第一高校（東京・私立）風見加菜恵先生

生徒と話す際に、教師が先読みして生徒の考えているだろうことを言ってしまってはダメだと思いました。生徒が自発的に発言できるように促していくために、どうアプローチしていくかが今後の課題だと感じました。

●関東第一高校（東京・私立）畑中計政先生

講義型の研修とは違い、教師の当事者意識を活性化させて同僚性が高められる研修だと思います。普段共有されにくい経験や感覚を語り合い、共有する。こういう研修をきっかけに校内の情報や意見交換を深めたいと思いました。

●関東第一高校（東京・私立）川合智先生

自分の面談を見てもらい、意見してもらうことがうれしかったです。また、ケース事例も日頃課題に感じていたことを体験したので、その面談を見てもらえて大きな収穫がありました。自己流ではなく、周囲の意見を聞くことが大事だと思いました。

●藤沢清流高校（神奈川・県立）金田亨先生

いろいろなケースへの対応が現実に近い形でロールプレイとして実践できるので、とても役立つ研修だと思いました。特に個別面談の経験が浅い若手教員にとって、ベテランの先生方の豊富な実践例を見て学べる貴重な場になると思います。

●藤沢清流高校（神奈川・県立）長谷川智司先生

ほかの先生方がどのように対応するのか見る機会はなかなかなかったので、新鮮で刺激になりました。自分が生徒や保護者を演じてみて、どのような対応をされたら話しやすいかなど、違った目線で見ることができました。

●藤沢清流高校（神奈川・県立）小島昭彦先生

研修のルール（生徒のためになる、傷つけない、人格否定しない、説教もしない）と振り返りの観点（良かった点をあげる、できる点を「～してみてはどうか」のように言う）は、参加者相互の意欲を引き上げるために、とても大事だと感じました。

●湘南台高校（神奈川・県立）黒崎洋介先生

自分自身の学生時代を振り返っても、面談で語られた言葉が今も残っています。生徒の進路のみならず、生き方（まさにキャリア）を大きく左右する大切な場だと思いました。だからこそ、職員全体でこのような研修をぜひ行ってみたいと思います。

3 ロールプレイの振り返り

8分

保護者役▼司法書士になるかならないか根本論に話を常に戻して、よく話し合うことを勧められたので、ああやっぱり話をしないといけないという気持ちになりました。

教師役▼東大法学部の話が飛び出したときは、正直動揺しました。その時その時、一生懸命答えるのに必死でした。

観察者1▼保護者がそこまで司法書士にさせたいからには、仕事に誇りをもっているはず。だから、安易にロボットもいいですよとは否定できないので、よく対応していたと思います。保護者から仕事のやりがいを息子さんに話しているかと聞いたところで、気づきがあった気がします。

観察者2▼子ども自身が幸せになることが一番だと先生が考えていることが伝わってきて、安心できたと思います。なぜロボットじゃいけないのですか？という問いかけをしてみてはどうでしょう。

保護者との面談研修をさらに深めるアドバイス

「今回は、進路指導やキャリア中心の面談ケースでしたが、保護者対応の研修だと、もっと深刻なものがありえるでしょう。そういったきわどいケースについては、今回の研修のように1回ロールプレイして振り返りをしたのち、さらにほかの先生たちが教師役をかわるがわる行い、どんな対応がいいかを話し合い深めていくという方法もあります」（諸富先生）

得たこと・学んだことと全体シェア

15分

●ロールプレイと振り返りで、気づいたこと、学んだことを1行で。

●グループ内で得たこと・学んだことを、各人30秒で語る。

●全体に向けて教師役を務めた人が気づきを発表。

Aグループ教師役▼保護者の思いを受け止めながら、学校での様子も話し、子どもの視点に立ってもらえるように働きかけていくことが大事だと思いました。

（拍手～）

Bグループ教師役▼保護者の方は、先生としての助けを求めてこられると思うので、自分の考えをきちんと話すことも大切だと思う。生徒一人ひとりを日頃からしっかり見て理解していることが大事だと思いました。

（拍手～）

Cグループ教師役▼保護者の鏡になって話を聞くことで、保護者が自分を客観視できるようにすることも大事だと思いました。また、子どもが保護者と話し合えるように子どもへの支援も大事だと思いました。

（拍手～）

諸富先生の声かけ

時間があれば、各人2分くらいずつ、振り返りの時間をとってもいいでしょう

研修の時間に余裕があれば、1行で書いたことを30秒で発言するだけでなく、それぞれ2分くらい時間をとって、1番の人が話をしたら、それに関する共感や質問などをし合っていくと良い。ここでも、肯定的なフィードバックを心がけることが大切。

50分で実施する

個別面談校内研修 5つのポイント

生徒・保護者との個別面談研修の誌上レポートはいかがでしたでしょうか？　これをもとに、実際に高校現場で校内研修をするための、50分の研修プランをまとめてみました。ぜひ、校内でご活用ください。

50分の研修プラン

準備するもの：先生が実際に出会って困った生徒（保護者）の事例（プリント）
ホワイトボードまたは黒板に「グランドルール」「振り返りのルール」を書いておく。
4人（3人）で一組になるように椅子を円陣に組んでおく。（机は使用せず）

構成メンバー：学年ごとにグループになるように。1学年8人の先生ならば、4人のグループが学年で2つずつ。全校で行う場合は、6つのグループができる。
年齢や役職にこだわらず、若手と経験者が共にロールプレイに参加する。

時間	内容		グループor全体	研修担当のファシリテーション言葉かけ例
15分	オリエンテーション	（1）趣旨説明	全体	「この研修は、先生方によるロールプレイを中心に行います。生徒（保護者）と先生といった役割を決めて面談のロールプレイを行い、その振り返りを通じて個別面談を向上させていきたいと思います。ロールプレイを行うにあたって、大前提となるルールがあります。まずは～（グランドルールを説明）。とはいえ、『なりきってエンジョイ！』することが大切です」
		（2）アイスブレイク・ハイタッチ・指をつけあいさつ	グループ	「最初に、少し体を動かして、準備をしましょうか。各グループのメンバーでハイタッチをし合いましょう」 「次に全体で、1対1であいさつをしましょう。誰とでもけっこうです。お互いの人差し指をつけて、研修への抱負などをひとことずつ交わしていきましょう。できるだけ全員と。では、どうぞ」
		（3）順番・役割決め	グループ	「じゃんけんで勝った人が1番。その方から時計回りに2～4番です」 「まず1番の方、ケース事例を読んでください。どうぞ」 「なりきってエンジョイするには、こういうケースを担当したことがあるという先生がやるのが一番です。そこで、グループで話をして、どなたがこの生徒役（保護者役）をやるかを決めてください」 「生徒役（保護者役）の方は左手をあげてください。はい。その左隣の方が、教師役です。いいですね」
3分	デモンストレーション		全体	生徒役（保護者役）になりきって演じる
8分	ロールプレイ		グループ	「はい、こんな感じでやってください。大事なことは、この生徒（保護者）の解説をするのではなく、本人になりきって役割をやりきることです。ほかの先生は観察者です。途中で手助けしないように。まず、教師役と生徒役（保護者役）の先生、立ってください。名前を呼ぶところから始めましょうか。どうぞ」
8分	ロールプレイの振り返り		グループ	「少し前向きな気持ちになれた人？　いいですね～。では、振り返りをしましょう。生徒（保護者）のためにやっているので、生徒（保護者）を中心に話をしましょう。ダメ出しはNGです。良かった点、できる点、もう少しこういうふうにやったらよかったんじゃないですかと、前向きになれるようなアドバイスをお願いします。生徒役（保護者役）、教師役、観察者の順番で。ではどうぞ」 （途中）「はい、あと2分です。まだ話をしていない先生は、話すようにしてください」
10分	得たこと・学んだこと、気づいたこと		グループ	「ロールプレイと振り返りを通じて、得たこと・学んだこと、気づいたことを1行で書いてください」 「では、1番の方から30秒ずつ、書いたことを語ってください」 ※30秒で全体にアナウンスし、「拍手～」を繰り返す。
5分	気づきのシェア		全体	「では、各グループからおひとりずつ、今の気づきを全体にシェアしてください。各グループ教師役の方にお願いします」 「最後に、同じ学年の先生同士、これからもよろしくね、頑張っていきましょうね、という気持ちを込めて、大きくジャンプしてハイタッチをして終了しましょう。無事終わってよかったね～とお互い言って終わりましょう」

ベテランと若手の先生が共に学び合う機会を作る

編集部では当初、この研修を「若手教員向け」として企画していた。経験の少ない若手教員にこそ、このような研修が必要なのではないかと思ったからだ。しかし、実際に計画を進めていく中で、若手の先生だけでなく、ベテランの先生も交じったほうが、より深い学び合いができると気づいた。

「ベテランの先生から学ぶこともあるし、若い先生のフレッシュさから刺激を受けることもあります。また、最近のベテランの教師は、若い教師にどう話しかけてあげればいいか、悩んでいる先生が多いんです。『何か困っていることある？』と声をかけてあげたいけど、そうすると『私は困っているように見えるのか』と気にされると困る…と。その点。一緒にロールプレイをすると、ベテランの先生と若い先生が一緒になれる。ぜひ、交じってやってもらいたいですね」（諸富先生）

実際に、今回誌上で体験した先生方からも、「先輩の話が聞けて、参考になった」という声が聞かれた。

個別面談力向上のためのロールプレイ研修をきっかけにして、情報交換や共感性の高い学年づくりにも役立ててほしい。そんな研修を実施するために、以下の5つのポイントを意識して、ぜひ実りある個別面談の校内研修を実施していただきたい。

POINT 1

学年単位で実施する

生徒や保護者の事例はリアルな内容なので、より実践的に行うのであれば、学年ごとに実施するのがおすすめ。時期や環境の背景も踏まえ、より共感しながら体験でき、共通の問題意識をもつこともできる。

POINT 2

実際に困った事例でロールプレイ

先生たちが、実際に出会って困った事例などを事前にヒアリングして、それをもとにロールプレイを行う。特に、困らされた生徒や保護者役を、その事例を提供した先生が行うと、まさに臨場感たっぷりに演じることができるはず。

POINT 3

ロールプレイは「なりきる！」

ロールプレイの大事なところは、事例の解説や説明をするのではなく、その役割に「なりきる」こと。多少の恥ずかしさもあるかもしれないので、研修担当は大げさにデモンストレーションを行う。全部やらなくても、一部だけでいいので、デモンストレーションをしっかりやっておくと、雰囲気が大きく変わる。

POINT 4

振り返りは生徒や保護者の目線で

個別面談は、教師のためではなく、相手の生徒や保護者のために行うもの。だからこそ、振り返りは生徒や保護者を中心に考えることが大事。どんな気持ちになったか、何か前進できた感じがするかなど、相手の立場で考えてみたい。

POINT 5

全員参加で、楽しむ！

ロールプレイは、できるだけオブザーバー（傍観者）が少ないほうがノリノリで行うことができる。校長や教頭も一緒に参加してもらい、全員参加でレッツ・エンジョイ！